京城新聞

安言妄評（三）

粟　微　生

▲愛國婦人會京城支部 は近來餘りに社交の一方に流れて他を顧ざるとの評判あり、果して然る乎、京童之を嘲笑して衣服裝飾の華美を競ふ共進會なりと曰ふ、京童の嘲笑果して眞乎、假令事實ならずとするも斯る風評の立つは愛國婦人會を組織せる貴婦人連の名譽に非ざるなり、

▲中島參謀 歸城して暴徒討伐に從事せる軍隊の艱難、何等の慰藉なきを說くや、多少貴婦人連の注意を喚起したるもの﹅如し婦人の天性として斯ることに深き同情を寄するは當然なり、地方に於ける我忠勇なる軍隊の責務は昨夏政變の際京城に於て奮鬪したると毫も異らざるなり、否地方に於ては何等の慰藉なく、何等の娯樂なき爲に却て苦しめり、

▲愛國婦人會 は昨夏の騷擾に於ては貴婦人等挺身して各慰問看護に勤めたり、以て世の稱賛を博したり、天使の降下として各負傷兵より崇拜せられたり、愛國婦人會京城支部はナイチンゲールや、ノキーラードの如き慈悲深き婦人のみを以て充たされたりと思はしめたりき、

▲聽け地方に於ける我忠勇なる軍隊の狀況を、賊國との戰ひの如く花々しき功績はなきも勞苦は却て多し、草賊にさへ暴徒は、恰も飯上の蠅の如く拂へば逃げ、油斷すれば集る、而して時は恰も酷暑、炎帝威を逞ふし其照光の暑さ、韓國は樹木少なく木蔭すら容易に見つからず、流汗烈しき爲に咽喉は渴くも飲料水乏し、痛く渴すれば濁水を飲むの止むべからざる事あり、爲に病に罹るなり、斯く奮鬪苦戰して假の營舍に歸るも何等の慰藉なし、其疲勞を癒さんと爲に眠らんとすれば、ピンデー、蚤、虱の總攻擊を受く、其辛苦艱難筆舌の能く盡くす所に非ざるなり、貴婦人諸子何ぞ同情を揮ひ起さざるや、

▲其娛樂としては中島參謀の語るが如く、古郷への書信を書くか、將校等の讀み古したる新聞紙を引張凧の如くにして讀むを無上の快樂となすのみ、何たる憐なる境涯ぞや、然るも何ぼ口に苦情を發せざるは深く御國の爲なりと信ずればなり、嗚呼此憐なる兵士の境涯は到底都人士の解する所に非ず、夏は山水に暑を避け、冬は溫泉に寒を避る人々の夢にも知らざる所なり、

▲貴婦人諸子 天性の溫き同情を此可憐なる兵士に注げ、諸子平生の費を少しく省けば講談師、浪花節語の一二人をして各假兵舍を巡回せしむる位の費用は辨ずべし、斯くして渠等に慰藉を與ふれば其喜悅や想像の外ならん、而して之が諸子の贈れる賜物とすれば渠等は一層喜で聽くべし、惟ふに愛國婦人會の主旨も斯ることに盡すべきものならん乎、敢て愛國婦人會に檄す、

●松井局長の訓示

警察部長會議に於て松井警務局長がなしたる訓示演說は左の如し

今回は暑中特に暴徒猶未だ撲滅に至らず各自殆んど在任地を離るべからざるの時なるに拘らず敢て此の會議を召集せられし所以のものは前に大臣次官の訓示にもありたる如く地方政治の刷新に際し先づ中央政府の意志に在る所を通せんがためにして即ち極めて短き時日を以て此れを遂んとせるものなり

諸君は曩に警察署長として重大の任務に當り特に其部下には暴徒のため戰死者負傷者をも出したり是れ諸君の最も痛心せる所なるべし此の點に於ては本官も特に同情に堪へず玆に先づ謹んで哀悼の意を表す本會議の召集に就ては大体の事は既に大臣次官の訓示もあり敢て蛇足を添ふるを要せざるが唯本官は別に聊か韓國警察官の職掌其の他執務上に就て一言する所あらんとす

第一　韓國警察官の職責

抑も韓國警察執務の困難なる事は世の皆認むる所にして自分も乏しきを斯職に受け日夜拮据鬱經僅かの時日なれども此の間の經驗に依れば益々其の困難なるを感ぜずんばあらず況して地方に在て親しく人民に接する各位の困難は實に推察に餘りあり蓋し韓國警察の困難なる其の理由は國情の甚しく混雜せるがため其の結果として此より產出せる警察制度も亦甚しく混雜せるに因る即ち暴徒討伐に關しては軍司令官によりて其の指揮を受くる事となり居り憲兵も亦內地と趣を異にして警察權を行ふが故に諸般の交涉あり又日本人警察に關しては理事官とも關係あり更に外國人に關する件に就ては統監府との交涉を要すべく又監獄事務及び司法警察執達吏事務等に關しては法部にも關係あるべく斯る復雜なる制度の間に立ちて警察官たるの地位を保ち其の職責を全ふせんとするは隨分困難なる事なりとす唯に斯の如く復雜なる關係に於て復雜なる社會に處するが故に曩に次官も訓示せられたるが如く統監大臣の觀察使に訓示せられたる趣旨を會得し此れを玩味して能く實行せられたし特に本官の遺憾とする所は韓國警察の信用未だ薄く人民をして保護官たることを充分了解せしむる事能はざる事是なり此れに就ては唯警察官たるもの自ら實行して其の地位を說明するを以て最も肝要とす又日本人警察官として注意すべき事は兎角本國に於ける經驗の結果として直譯的に其の儘此れを行はんとするの弊なるが韓國にては決して其儘にては行はれず善く國情を察し此れに適合する樣應用するを要す第一文明の程度異なり特に制度は甚しく混雜せり彼の風俗警察、營業警察、衞生警察等の如き內地にては常に勵行を必要とする所なれども斯國にては嚴に過ぐる時は却て害を生ずる事あるべく却て他に大影響を及ぼす事あり此の間の消息は特に注意を要す今日に於て警察官の最も急務とする所は風俗警察や營業警察等に非ずして刑事警察なり畢竟するに正確なる證據を擧げて竊盜、强盜、詐欺脅喝等の犯人を捕へ生命財產の安固を保障して人民をして安心せしむるにあり

又觀察使は道令を發布するの權能を有せらるゝも私見としては可成警察規則は制定せざる事とし若必要に迫られ是非制定せざる可からざるものあらば萬止むを得ざるも可成は說諭等の方法により指導的實行を期せられたし又曩に次官も訓示せられたるが如く韓人警察官の敎養は勿論兩班其他の人民にも能く接見し地方の狀況を審にし人情を解せらるゝ事殊に必要なり彼の儒生兩班の如きは兎に角一方の思想界に勢力を有するものなれば此等は導きて利用すべし以て風氣を開き又一民をして統監政治の主旨を了解せしむるに大なる效力あるべし尤も統監政治の主旨を說明するに際し若し其の主旨を誤れるときは却て妨害あることゝ故與々も統監の諭示等は充分に服膺致し置かれ度し

（未完）

小說

新不如歸（七十六）

篠原嶺葉著

尾花敏男は、西脇家から歸ると直樣參謀本部に趣いて委細の復命を了つた、宅に歸つた頃は既に誰乎彼時であつた。やがて晚餐を了へて自分の室に入ると、間も無く繼母の奈加子が入つて來た。

「敏男さん、定めてお疲れが出てるだらうが、私少しお話し爲たい事があるのだがね。」

と云ひつゝ相對して座に着いた。

男敏は卷莨を喫しながら、

「何でございますか」

「いゝえ、外の事ぢやありませんが、私お前の不在中に百合子を離緣したので、嘸お前も淋しからうと思つて、大層氣の毒に思つて居るんだが、どうだね丁度良い緣談があるんだが、直に代りを貰ふ事に爲ては。」

「して、其れは奈何云ふ話なんですか」

「いゝえ、なに、別に奈何と云ふのぢやないがね、日外も話した猿渡の島子さんだがね、是非お前さんに貰つて欲しいと云ふので度々他人を以つてお話しがあるので實は私も斷るにも斷りかねて、兎に角倅に勸めて見ませうと云つて置いたのだがお前さんの目からは奈何見ゆるか知らないけれど、容色だつて何處へ出しても敗を取るやうな容色ぢやなし、財產は萬とある、敎育だつて女學校を卒業爲て居るんだし、お前の嫁に爲て少しも不足は無いと思ふが、少々位は不足はあるとしても、其れは我慢して貰つて遣つて下れませんか、眞箇私度々言はれてるので挨拶の爲やうがなくて困つて了ふのだから……。」

「折角のお話ですが、日外も云つた通り斷然と謝絕致します、私は猿渡と云ふ男も氣に適はんですが島子と云ふ娘が第一嫌ひです、まあ〳〵好嫌は暫く措きまして、私は大に感じた事がありますから、最う妻と云ふものは斷然娶らないと云ふ考へであります、どうぞ此後緣談は斷然と有仰らないで下さい。」

と、斷然と云ひ放つた。

「だつてお前然う云ふ理には行きませんよ那樣事云つた日にア尾花家の系統はお前さんきりで斷絕爲て了ひます、お前は其で宜いかも知らんけれど、私は亡くなられたお父樣に申譯がありません、那樣亂暴な事は云はないで、私の一生のお願ひだから、どうぞ島子さんを貰つて遣つて下さいな、ねツ。」

と、飽くまで島子を勸むるのである。

「そりや、尾花家の系統が絕ゆるから貰へと有仰るなら、祖先へ對して濟まないから、貰はないもんでもありませんが、まづ三年や五年の間は決して貰ひません、夫れに假令貰うにしてからが、私は私の好きな女を貰ひますから、猿渡の娘なんか何と有仰つても貰ひは致しません、どうぞ再び猿渡の事は有仰つて下さんな。」

「そりや、云ふなと云ひなら勸めは爲ませんが、奈何して那樣に猿渡さんを敵かなんかのやうに嫌ふのだらうね。」

「貴方はまた奈何して、私が可厭だと云ふ島子をそれ程までにお勸めになさるんでせうか、私は頓と合點が行かないです。」

「奈何して勸めるかと云つて、眞個這麼良い緣談は無いと思ふからだが、お前が其程嫌ひなもんなら、もう勸めは爲ませんよどうぞ自分で勝手に百合子のやうなお行儀の宜いのをお貰ひなさい、やれ〳〵お疲れの所をお邪魔爲ました。」

と、あてつけがましく厭味を云つて、室を出て去つた。



京城新聞

官民思想の衝突
（民長官撰に付破裂す）

民長官撰は官憲本位即ち韓國本位思想の具体的發現の一部なり、之に反對する在留邦人の輿論は在留邦人本位即ち帝國本位思想の一部の發現なり、民長官撰問題に於ける官民の衝突は唯一部の現象に過ぎず、統監府當局の施政方針が在留邦人の發展に關して甚だ冷淡の傾向あるより端なく官民の思想の衝突を起したるなり、

官民の一致協和して韓國經營に從事するの最も必要なる秋に於て比較的小問題に依りて官民の衝突を演ずるが如きは列國の人より見るも頗る解すべからざる事にして、韓國經營の上よりするも甚だ不祥の事なりとす、然れども統監府の當局は本問題の既に說きたる如く余りに大人氣なき仕打に歸すると云ふも不過なきなり、若し夫れ官民間の思想上より觀察すれば此等官民の衝突は早晩來るべきものなるやも知る可らず、之を既往に鑑みるに、所謂公使館時代領事館時代に於ては多くの場合に官民の思想は統一して一致せり、公使も領事も在留民と共に帝國本位にして活動したるなり、其遂行したることは全く帝國の利益となりたることのみなるや否やは知る可らざるも公使も領事も帝國本位即ち在留民を本位として總ての事を施設したるなり、斯くして漸次に發展し終に列國も帝國の優越權を認むるに至れるなり、然れども在留邦人は尚ほ活動の自由を缺き充分の發展を爲す能はざりき、然るに露國との戰役に依りて帝國の東洋に於ける地位は更に優勝となれり、在韓邦人は勿論祖國國民一般は日韓の關係が此際大に發展すべきを豫想したり、果せる哉帝國第一流の政治家伊藤公は大使として韓國に來れり、而して國民の豫想は反したれども保護協約は成立したり、祖國民も在留民も多少欣喜したり、之れ公使館時代よりも在留民の發展に於て一層便宜を得べしと信じたればなり、而して第一流の大政治家伊藤公自ら統監として駐在するに於て更に一層盛を屬し期待したるなり、何ぞ圖らむ、其期待したる邦人發展の便宜に感ぜしむる所なく却て韓國民懷柔の爲に其發展を犧牲にせらるゝ傾向を呈して來れり、在留邦人は茲に於て失望せり、官憲に對する在留邦人の感情は漸次に變化せり、統監府側に於ては飽迄韓國指導を本位とし、韓國民懷柔に熱中し、若し其方針に反對するものあれば之を壓迫するも可なりとの勢を示せり、從て在留邦人利害の如き些々たる問題は眼中に置かざると共に徹頭徹尾官憲本位韓國本位の政策を現はさゞる可らず、茲に至ては勢ひ官民間思想の衝突は免る可らず、蓋し官民思想の衝突は詮じ來れば韓國本位と帝國本位の衝突なり、官憲本位と在留民本位との衝突なり、民長官撰問題に於ける衝突の如きは具体的に其一部を發露したるのみ、今や滿韓に於ける大陸經營の急を要するときに際して、官民間に思想の衝突を起して反目するが如きは最も戒愼せざる可らず、統監府に於ても在留邦人を度外視して唯官憲の權力のみに依りて韓國を經營せんとするが如き愚劣なる政策を捨つべし、宜しく在留邦人の意志を參酌して官民手を携へ大陸政策の遂行と韓國の指導に從はざる可らず、余輩は先づ統監府に向て其方針を更に改善せんことを勸告するものなり、

東京電報

▲内務省豫算
明年度内務省豫算は四日編製を終り明日局長會議を經て大藏省に廻付する筈なるが經常費臨時費を合せて總額三千六百万圓なり

▲松島巨砲引揚
沈沒艦松島に搭載の巨砲は引揚作業中の處昨日無事引揚を了りたる旨公電ありたり(八日發)

▲特命檢閲伏奏
各特命檢閲使今日參内狀況を奏上し　陛下には優渥なる御諚ありたり

▲暴風雨と被害地
一昨日來の暴風雨にて宇都宮、神戸、名古屋、濱松、山梨の各地に多少の被害あり

▲暴風雨と稲作
今回の暴風雨は稲作には大損害なく早稲のみは開花の際とて多少被害あり

▲電信線の被害
暴風雨のため全國電信線の被害あるも今日中には復舊せん

▲物價又々低落
日本銀行の調査によれば七月中の物價は前月より總平均二厘二毛の低落なり

▲牛疫の猖獗
七月廿一日以來昨日迄に全國を通じて牛疫に罹れる牛千五百七十七頭にして内斃死せるもの百十二頭撲殺したるもの千四百六十頭なり　(以上九日發)

▲韓太子の出發
韓國皇太子は本日新橋御出發陸路を神戸に行啓あらせられ同地より軍艦に乘込み關西地方へ御巡遊あらせらる(十日發)

地方電報

▲元山の水害
昨夜來の強雨にて赤田川增水し附近の日韓人家屋悉く浸水せり(十日元山發)

雜報

●副統監軍司令官の訓示
昨日午前十時より各道警察部長は統監府に參集し内部大臣同次官石塚參與官列席の上曾禰副統監臨席し地方警察事務に關し一場の訓示演說をなす終りて部長一同は軍司令部に到り長谷川軍司令官より軍隊と警察との關係及び兩者協同一致して暴徒討伐其の他に盡力すべき旨の訓示演說を聞く因みに警察部長は愈々會議終了したるを以て本日より夫れ〳〵歸任する筈なり

●民長官撰反對 鎮南浦議員の態度
鎮南浦民團議員及び居留民一同は擧つて民長官撰に反對するの意向にて民團議員の諸氏は如何の手段により反對の意志を發表し府令撤廢を期すべきやを目下講究中なり議長原田殖策氏は京城和田議長より接受したる照會に對し各議員と内議中なり

●群山議員の請願
民長官撰廢止の件に關し群山居留民團議員は連署を以て左の請願書を理事官を經て統監府に提出したり

謹而統監閣下に請願す

去月廿二日突如として統監府令第二十三號を以て民長官選の法令發布相成候處之に對する韓國各居留地の物議は頗る紛擾を極め論議百出或は過激に渡りて往々其眞意を誤るもの有之斯の如きは下名等の其採らざる所に御座候然れども今顧て該法令を按ずるに其法理上の見解は暫く措き我韓國の居留民各團体は果して同法令の發布を見るに至る迄尚自治的機能は幼稚なるや將た我群山居留民の自治能力は官選民長を戴く底の進歩をなしたるや之れ爰に下名等の首肯する能はざる所に御座候

竊きに民團法の實施に依り其成立せるもの十二ケ所に及び其他日本人會の如き小團体は至る處に存在し其多くは古き經歷を有して而して別に國家より特種の保護を受けたることなきも然も能く外間の迫害に堪へ得て自ら防ぎ自ら勸めて今日の如く自治的機能を發揮するの盛況に至りたるものにして我群山の如きも明治三十二年五月開港以來既に九週年歳月と共に膨脹發達して遂に能く今日の盛況を見るに至りしは思ふに我群山に於ける居留民の自治思想は決して幼稚なるものにあらざることを示すものに候然るに今や突然民長官選の法令を發布せられたるは下名等の了解に苦む所に候若し夫れ民長官選のために民團經費を節するさ云へるが如きは殆んど論議の價値なく且又一二民團の紛爭を以て直に他の居留地を同一視するが如きは固より皮相の見たるを免れざるを以て是等は到底法令發布の眞因に非らざるべく要するに下名等は殆んど五里霧中に彷徨するの感なくんばあらず抑執行機關の主腦たる民長の選擧は自治團体に於ける尤も主要なるものゝ一なり殊に民團法の規定によれば民長の職權は之を内地市町村制の夫に比較して其範圍重且大從て自治政施行の良否は一に民長の双肩に懸るを以て民團法施行規則に於て民長を公選となしたるは之れ同法の尤も主眼たる所と被存候去れば民長の選擧は殊に在留民の專心熟慮すべき處なるに今若し民長官選となさんか自治体の本旨を沒却するは勿論議決機關と執行機關とは自ら其間に溝渠を造り自治の圓滿を缺ぎ平和なる團体をして反て波瀾を起すに至るは一目瞭然たる所に候蓋し官選民長或は過渡時代に於ては必要なるを得べきも百事其基礎を強固にせる今日決して其當を得ざることは敢て贅言を要せざる所に候之れを要するに統監府令第二十三號の發布は法理上將自治團体の發達したる今日殆んど何等の理由を發見する能はざるのみならず居留民團体の自治を沮害するものと認め候に付下名等の顯意御採用法同令の撤廢あらんことを茲に謹而請願仕候也

明治四十一年八月六日

金森玄三　徳永吾助　扇安太郎　横山與市　阿部榮太郎　榎虎吉　田中福市　磯部讓哉

統監代理
副統監 曾禰荒助殿

●時事新報の反對
統監政治に對し常に好意の態度を採る時事新報も今回の民長官撰には懲令強行の不可を認めて遂に去る七日の社說に因つて反對の意志を發表したり

●大阪毎日の反對
大阪毎日新聞が常に韓國問題に關し特殊の注意を拂ふは在留邦人一般の多とするところなるが今回の民長官撰問題に就ても社說雜報等に於て官撰に反對するの意志を表明し居れり

●議員と理事官
八日午後八時三浦理事官が過日總辭職をなしたる民團議員を招き何事か懇談せられたることは既報せしが今聞く所に依れば當夜列席したるは和田議長を始め山口、曾我、濱野、釘本、進、廣取の六議員にして三浦理事官は今回發布せられたる民長官撰の統監府令が官民融和の精神より出でたることより說きて總撰擧の期も僅か二ヶ月に迫りし今日總辭職をなすは甚だ不得策なれば之を思ひ止らんことを懇談せられたるに對し列席の諸氏は今回の統監府令に對して統監に請願する所ありしも其希望を容られざるを以て我々の立場として又責任として堅く決する所あれば思ひ止ることは斷じて能はずと答へしに理事官は更らに然らば議員一人辭職なきを以て民會を組織するには補欠選擧を行ふの要あり然れども十月は總選擧期なれば今日補缺選擧を施行するも有權者の確定名簿を調製するには彼此五十餘日の日子を要するに至るべし故に補缺選擧を行ふとするも亦直ちに總選擧を行はざるべからずへなかるべし而して總選擧に際し諸君にして選擧せらるゝに於ては之を承諾するやとの言に對し統監府に於て我々の希望を容れざる爲今日の如く辭表を提出したるものなれば假令總選擧に於て再選するとも我々の希望を容らるゝまでは之を承諾せざる決心なりと斷然たる決心に理事官は然らば諸君にして總選擧に當り他の被選擧者に對し妨害を加ふる如きことは萬なきことゝは信ずるも若しも此の如き行爲ありとせんか職責上不問に付する能はず之れに對する相當の處置を施さゞるべからず此の邊は然るべく諒せられたし云々夫より三四の質問應答ありて後理事官は漢城の發達と共に早晩漢城市制を施行せらるゝの時あるべし此時は既に日韓人とも此市制の下に包容せらるべければ此時は既に現在の居留民團を存置するの必要なきは勿論なり若し此の如き漢城市制施行せらるゝ曉は之れが市には無論統監の任命に依るものなり故に今回發布せられたる統監府令第二十三號は云はゞ之れが豫備とも云ふべきものなりと語られたりと

●熊谷民長の去就
熊谷民長が議員諸氏と行動を共にすべしと云ひ或は止まつて官撰民長の候補者と爲るべしとの噂は交々坊間に傳はるところなるが側聞くところによれば氏は兩三日間に公明の處決をなすならんと云ふ

●民團理事者と決算報告
昨年度の決算報告は事實に於て民會の存立せざる今日の事故民團理事者より近日理事官に向つて報告を爲すべしと云ふ

●民長官撰と進步黨
代議士大内暢三氏の談に依れば自分は韓國に籍を置ける立場よりして將來韓國に關する問題に對して大に研究を遂げ居留民の爲め充分盡さん覺悟なり今回の民長官選令の如きは隨分亂暴千萬なる話にて我政界の一問題にもなるべき筈なるが我進步黨にては今後余をして之れが眞相を究めしめ然る後黨論を定むる筈なれば余は木浦に歸りたる上直ちに京城に赴く筈なりと云へり

●韓國暴徒鎮定費
韓國に對する日本政府の立換金は總額一千九百六十八萬二千六百二十三圓(四十年度より四十五年度まで六ケ年間に支出)にして本年度豫算額は五百二十五萬九千五百八十圓なるが右は畢竟韓國政府一般行政費の不足額を補塡するためにして暴徒鎮壓費の如きは右立換金以外に屬し全然日本政府の負擔すべきものなり而して政府は暴徒鎮定の必要上從來駐屯せる一箇師團以外昨年より本年に亘り增遣せるもの既に一箇師團に及び之が經費は豫算に計上せられざれば當局者は豫算外支出として前年度剩餘金中より之を支辨しつゝあり本年一月以降の支出額は既に五百萬圓に達したりといふ

●平安黄海兩道の稲作
平安南道及び黄海道各地方を巡視したるものゝ談に依れば本年の稲作は近年になき豐饒なるべしとの事なり韓國の水田は總て水利の便なきが爲め例年挿苗に苦心する事容易ならざるに本年は恰かも挿苗時期に降雨ありて頗る都合よく之を終り其後は稍久しく晴天打續きたるも折りよく降雨來りて若し此狀況を以て秋に至らば近年になき好作なるべしと農民一般に喜悅し居れり尤も幾分の害虫發生して大に杞憂する處となり居りしが之れも過般豪雨に依りて洗ひ流されたるより洪水の爲め水害を蒙りし箇所は止むを得ざるもその他にありては申し分なき發育なりと云へり

●人蔘拂下入札に就て
度支部は本日の官報を以て人蔘一萬一千八百四十五斤の拂下入札の公告をなしたるが其の入札保證金は十萬圓にして買收を希望するものは本月十五日迄に同部に申出で同部は此の申出者中より入札し得べきものと認むる者を十九日に指名し廿一日開城に於て現品を熟覽せしめ廿五日に入札を執行するとの事なり

●拓殖會社創立委員
東洋拓殖會社創立委員は日韓兩國官民中より任命せらるゝものにして韓國人は各道より二名宛漢城府より七名合計三十三名を各道よりするものは觀察使をして此れを推薦せしめ漢城府よりするものは政府此れを人選し本月中に任命を經り來月中に東京に派遣する筈にて目下夫れ〳〵人選中なりと

●愛國婦人會幹事會
暴徒討伐の爲め韓國各地に駐在せる軍隊慰問其他の要件に付愛國婦人會韓國本部當番幹事道家、頭本、松井、國分、峰尾の各夫人は今十日午前十時和城倶樂部に會合し種々協議の末概ね左の通り協定したり

二萬に近き駐在の軍隊及憲兵に對し韓國本部に於て慰問の爲め特に調製したる紀念繪葉書等を寄贈する事

尚便宜の方法に依り内外の會員有志者に勸誘し此際相當慰問品の寄贈方取計はれたき旨東京本部に申請する事

●即位式慶祝準備會
八日午後三時三十分より宋内部大臣、趙農商工部大臣表勳院總裁漢城府尹及一進會員の重立者等三十餘名は明月館に參集の上即位禮式慶祝會の件に付準備打合を爲せり

●帝國實業會の創立
農商工部大臣趙重應を會長に戴きし東亞開進教育會は近來兎角の世評ありて不振の狀況なりしが今般愈々大韓實業獎勵會と合同して帝國實業會なるものを創立したる由同會役員は會長俞吉濬副會長閔元植總務劉秉珌顧問服部鍵之助の諸氏にして其主張する處は實業教育衛生の刷新を圖り三局十課に分ち空論を避け實行を期し大に活動を期する由なり

●村田明石兩將軍出發
既報の通り村田少將明石憲兵隊長は咸鏡南道警察部長岡田警視と共に一昨夜十時半南大門發列車にて北韓地方の暴徒視察の途に上れり

●永濱稅總長歸朝
關稅總長永濱參與官は關稅行政事項に關し大藏省と打合を爲し及び稅關事務を視察する爲め來る十三日夜行列車にて歸朝せらる

●仁科助役の葬儀
去る七日逝去したる民團助役仁科正胤氏の葬儀は豫記の如く一昨日午後五時自宅出棺南山本願寺に於て執行されたり導師井波潜彰師の讀經熊谷民長の弔詞及び富田仁川民長の弔詞元山民團の弔詞代讀あり夫より遺族及び親戚會葬者の燒香あり式を終りたるは六時頃にて最も莊嚴なる式なりし當日の會葬者は民間各紳士紳商統監府員民團吏員各學校教師等三百餘名なりし

●張志淵の窮境
曩に海蔘斯德に赴き海潮新聞を發刊したる張志淵は新聞事業に失敗したる爲め已に歸國の途に就き上海迄來りたるも旅費欠乏の爲め進退に窮し居る趣きにて在當地同人の知友及有志者等は義捐金を募集し之を救濟せんと奔走中なり

公人私人

▲笠川德輔(陸軍少佐)一昨日入京花屋投宿
▲順藤寮(平壤財務監督局事務官)一昨日歸任
▲岡田宜壽(咸南警察部長)同上

●近事片々
▲桂内閣も伊藤統監祭込には隨分持て餘し氣味と見へる今や其魂膽最中なりと云ふ
▲樞密院に祭込日本に留置政友會の操縱をなさしめ以て傍ら例の如く拜み倒さんと
▲桂侯としては伊公を日本に置き曾禰子に自分の思ふが儘の政策を採らしめんとす
▲若し伊公にして尚は韓國に赴任するとならば曾禰子を呼戻して顯相たらしめんと
▲併し伊公も其對韓政策が幾分失敗の氣味を自覺せるを以て茲進退が容易に決せず
▲山縣一派は此際何とかして体よく祭込み唯政友會操縱の道具に使はんとせるなり
▲斯く伊公も邪魔者扱ひにされても頑張て居るは余り得策ならず茲等が退隱の潮時
▲尚ほ活動を試みんとならば寧ろ北京に遊で對清策に貢獻するは最も面白からずや
▲今や我對清政策更に振はず公にして北京に遊ばゝ或は面目を一新する事もあらん
▲民長官選問題の各地民團の意嚮は總て是反對ならざるなし官憲は宜しく反省せよ
▲撤廢運動の方法に就ては多少異る處あるも絕對に反對する點は何處も更に異らず
▲啻に在韓各地の民團のみならず祖國に於ける輿論も既に反對の氣勢を現はせる也
▲撤廢するも決して官憲の威信に關せざるを以て茲は宏量以て速に撤廢するが上策
▲近頃亦韓人間に俞吉濬が首相となるとの風說をなす者もあり無論之れ甚說ならん
▲一進會亦も内閣總辭職の勸告を初めたりとの說あり果して事實なるか甚だ疑はし
▲嚮きの辭職勸告運動のごときには妙なる噂立ちたり今度も其手ではあるまいかと
▲兎角韓人の結社は政治運動にのみ走りたがりて困る主宰たるもの大に警戒を要す
▲韓國皇太子は愈々關西各地巡遊の爲に橫須賀より軍艦に搭乘出發せらるべしと云
▲隨伴は伊藤公は勿論岩崎古谷を初めとして趙東潤嚴柱益其他學友數名なりとの事也
▲紐育知事とユース氏の再選に就ては盛に暗鬪行はれ居るよし何處も同じ秋の月乎
▲大統領ルーズベルトの如きも氏二回の知事就職は勢力を絕大ならしめんと氣遣ひ居ると
▲愛知縣沿岸の漁業に使用する漁船は非常に進步したる者にて恰も水雷艇の如しと
▲其速力の快速なる一時間十四浬を走り其漁獲の如き頗る多大也と是漁界の一進步

短編小說

愛（五）

青楓生投

藝妓は果して賤業であらうか、世の千事萬業均しく社會に有用のものならば、何にごて之が上下の差別あらうぞ、藝妓とても、社會の需用にかられて、發生したものを、賤業と云ふは、餘りに不可解ではあるまいか、成程美江樣は藝妓である、併し美江樣は、相當の教育も受けて居るので、何にも最初から、藝妓たらんを希望た譯じやなかつたのである、だが榮枯盛衰は、定めなき世の運命である、彼女が親父の事業の失敗は、彼女をして非運に陷らしめたのである假令僕が藝妓と關係したからとて敢て恥づるの必要が何處にあらうかと彼は心に斯ふ思ふと勇氣も增して來るのである。

「支配人の眼からは、藝妓は或は賤業かも知れません、併しあれでも時には、王侯も狂ひ宰相も戲れるじやありませんか、彼等は果して賤業ならば、之に狂ひ戲るゝ天下の王侯宰相も亦劣等視せねばならないと思ひます」

儼たるの此の一言は、支配人をして少なからず狼狽の打擊を與へたのである。最前から藥卷を燻ゆらし乍ら、二人の對話を聞いて居た支店長は、ヤオラ立つて、言葉も荒く、

「北村ッ君は如何あつても、斷念することは出來んか」

「ハイ、十年の戀は、如何あつても僕には之を放棄する譯に參りません」

繁は、更に憶する氣配もなく、明瞭と言ひ放つて、ホツト息を洩らすのである。

「宜しい、會社は會社の名譽保持上、君の私慾を敢て遂行させるといふ事は、到底不可能の話じや、君がうらゆう意思ならば、會社は今日限り君を解雇するから、其の積で……」

「ハイ」との一言を後にして、悠々と店頭を出た繁は、途次千種萬樣と自分のことや美江樣のことを考へ乍ら、人車の繁き本町通りに出た、軈て南山町に折れて、左側の高等下宿東館に着いたのは、日も漸く暮れかゝつて、水汲む男女の、忙しさうに步く時であつた。

「お歸宅やす、貴方、婦人の方が折角待つて居やはる」

彼は意味あり氣の、下婢の笑には、見返りもせず、トン〳〵と階子段を上つた

「貴方どうなすつて、隨分遲いわねに、妾先刻から、待つて〳〵待ち草臥れてよ」

敷居際に立つて出迎へるのは美江樣である

「夫は氣の毒でした、僕ね少し社に用があつたので、斯樣に遲刻なつたのです」

洋服を、白絣の單衣に着更へて、一閑張の側に坐つた。

「そう、ヂして用事と云ふのは、如何な事……大分顔色が惡いわ、眞青よ」

て、北村は、今日のあらし出來事を仔細に話して、

「夫で遂に退社されたのです」

「退社ッあの會社をまア……」

●伊東派の革新劇

韓國劇壇の寵兒伊東文夫は到る處に大當り好評を博して再び當地に乘込み、去る八日から旭町なる歌舞伎座に據つて本町座の白川派と相對した一行三十餘名の中一二の新陳代謝は有つたが顔觸れに大した變りなく針線渡りに妙を得た杉浦春之助が女優の美咲信子と携へて馳せ加はり、道具は悉く新調せし夏景色に夏衣裳を用ゐる爲め涼味が自然に湧いて觀心地が好い、且つ切符制度の勵行、旋風器の設置など所謂伊東式の策略は嬉しく、狂言も成るだけ理屈つぽい作を避けて肩の凝らぬ夏向きの場面に變化の多い賑やかなものを選んだのは頗る策の得たるものでいやでも客足の絶間があるまい慾を言へば開幕時間を早くして毎夜必らず二番目狂言を加へて欲しいと思ふ、客を呼ぶのは子役桐之助の鬼才のみでなく、杉浦の針線渡り、贅を盡しゝ夏衣裳、安直主義の切符制度など指を折れば何れも韓國劇壇には破格のやり方、之れを革新劇と呼ぶも決して過賞ではあるまい、電氣劇を標榜せる本町座の白川派に取つては伊東派の革新劇は頗る強敵である、相期せずして競爭をするに至つたが、記者は何方にも成功をさせてやりたい、要するに其の責任は觀客諸君に有るのだ、併し既に二十日も打つた白●●の方は客の方で惰氣を催して居るに引き換へて伊の方には覇氣滿々たるものあり、鋭鋒當る可からずではあるまいか（一記者）

●出齒龜式ヨボ

▲白晝の強姦未遂
▲被害者は日本婦人

去る六日のことなりし人を以て山なす南大門內市場に於て午前十時と云ふ白晝に日本婦人の韓人に強姦せられんとしたる椿事あり被害者は北米倉町菓子商繁松滿の妻リヨウ（三十）なるものにて此日リヨウは青物市場に至り同行の婦人二名と韓人店の桃を各自に買求めたるがリヨウは此外に尚ほ買物も澤山あればとて他の二婦人と別れ他の韓人店に至り上等の林檎を見せよと云ひしに胸に一物ある店の韓人は此方へと何食はぬ顔にて案內するゆへリヨウは謀らるゝことゝは神ならぬ身の知る由なく定めし上等の品物があるならんと案內せらるゝ儘に尾き行きしに途ある家の前に來りし時件の韓人は扉を開きて此所に澤山ありと云ひしかばリヨウは何氣なく戶の入口を這入り見ればコワ抑も如何に室は眞闇にて入口の外三方は壁にて一見土藏の如く籠らしきものゝ見へる林檎らしきものは一向見當らぬより韓人に尋ねんと後を向けば以前の入口は此時堅く閉されて眼に見へるものは壁の白きのみなればリヨウは此に始めて謀られたりと覺りし時は既に遲く野獸の如き件の韓人は鬼の腕の如き手を以てリヨウを抱き締め怪しかる擧動に及ばんとするをあらん限りの力を出して突き退け逃れんとするを韓人は逃してなるものかと又もや袖を捉へて離さねば持ちたる蝙蝠傘にて衝き退け漸く扉を開きて屋外に飛出し虎の口を免かるゝを得たりと此加害者は二十歲位の韓人にて直ちに何處へか姿を隱したるを以て今に之を捕ふるを得ず目下嚴探中なりと云ふ實に不埒極まる出齒龜式韓人なりと云ふべし

●意中の人

南大門通り三丁目のある大きな雜貨店とばかりにて名は知るに由なきもソコにお糸とかいふ今年取つて二十になる丸ポチャ娘ありと思召せさて此の娘平素いたつて無口の上に性質も温順にて又婦として一通りの道も辨へ居る所から此れ迄も諸所方々より嫁に貰ひたしと申し込むものも引きも切らず兩親も又其の度毎に愛等ならばと大概目星を付けて娘に相談すれど肝心な娘はいつも厭ですと橫にカン振りをふる有樣に兩親も困つたものとは思ひ居れど當人の厭がるを無理に強ふるのも却て不縁の基と折角仲に這入つて呉れた人々には宜い加減に返辭を爲し居りしがさりとて遲かれ早かれどうで一度は何れへか嫁がねばならぬ身の何時迄も厭ですと行きませぬと強情を張る娘の言ふ事許りを聞いて居る譯にも行かねば父は少しく立腹の氣味にて丁度近頃ある所に縁談のありしを幸ひ娘を一間に呼び寄せて平素の不心得を諭し且つ今度といふ今度の縁談は願つてもなき縁組それをお前が毎時の如く兎や斯ういふならば最早兩親はお前の身の上については爪の垢程も心配せず自分勝手にするがよいとの嚴重なる申し渡しに娘も一時は此の父の言葉に從はんとは思ひしが胸に一物ある身はヤハリ厭ですの味もソツ氣もなき返答なるより父は大に立腹しそれならばお前の勝手にするがよからんと其の場を立ち去りたりしが何故に此の娘が此のやうに諸所よりの縁談を刎ね付けるかといふをいろ〳〵と探り見しに此の娘には疾うの昔國に於て深く言ひ交した男ありて而も其の男が二三日前仁川のある商店に番頭として住み込みしてとの娘の許に知らせありし爲め斯くは兩親が何んといはうと其の情ある言葉に從へぬのだとの投書をかくの如し

●悴の嫁になれ

東大門外長安里居住鄭硫伊は妻の朴姓女（二十）との仲餘りに睦まじければ痴話口說の絶へ暇なく此程も痴話が高じて夫婦喧嘩を打始めたるも素より犬も喰はねば近所の仲裁も入らぬ無沙汰に喧嘩も張り合が拔け朴姓女は其儘家を飛び出し中茶洞二十五統一戶金秉先方下人なる金泰元の家に逃げ行き隱れ居たるに泰元は此程其女房に死別れて以來母の李姓女との二人暮らしなるが母は悴が嘸ぞ淋しかろう甚麼かして女房を持たせたいと常に心に掛け居りし矢先朴姓女が飛び込み來り身を措まい呉れと賴みたるに之れ幸ひと打ち喜びて朴姓女に向ひ夫と喧嘩して逃げて來たは幸ひのこと悴泰元は此頃妻に死別れ何ぼうか寂しかろうと親の心として思はない日はない何卒悴の嫁になり呉れんかと折入りて賴みたるに朴姓女は三日間考へたるに夫が獨り寢の嘸ぞ寂しかろうと初めて夢より醒めて急に歸りたくなりたれば斯くと李姓女に告ぐるや李姓女は大に怒り犬でも三日養へば三日の恩は忘れぬに人間の身でありながら其恩をも報せず夫戀しさに今更歸るとは何事ぞと夜叉の如く猛り立ち惡口雜言に朴姓女も負けては居ず郞といふ歷とした亭主のある此身に下人不憫の女房になれとは人を馬鹿にした老ぼれ阿魔といふより早く李姓女に摑み掛りたり此事警察署に訴へ出るものありたれば巡査出張し引致の上懇々說諭したる後朴姓女は夫に李姓女は悴に引渡されたるは八日午後七時の事なりし

●ヨボのモグリ

二三日前節洞居統戶不詳全公叔（五十）は公洞六十四統十一戶酒店金千道（二十八）方に來り飲酒なせしに懷中無用なる故此の紙入を預け二三日うちに金と引換へに來るから其れまで待つて呉れと言ふにぞ金も其の請を容れ件の紙入を預り置きたる處昨日正午頃全公叔來り引換を求めたるより返したるにハテナ自分は此の中に質札と外に大切なる品物を入れ置きたるに見へざるは定めて貴樣の盜みたるものならんと覺えもなき難題を持ち出されたるより金は大に立腹なし全公叔を警察署へ突き出したるに取調の結果まつ赤な詐りと明り大目玉を頂きてアイゴー

●醉拂傭夫の亂暴

何んと氣が橫道に這入つたものか九日午前一時曲橋居住金元八なる傭夫は隣家酒店なる朴姓女（三十）方に突入し同女を毆打し大に力味居る處を巡廻の巡査に取押へられたるが酒狂の上と明りいたく說諭をうけて[illegible]

●馬車人を傷く

一昨日午前九時西小門外馬車夫李尚吉（三十）は馬車を挽き通行の際通り掛りたる忠淸北道沃川郡鄭遠源（六十）なる者の左足を轢傷せしめ五十錢の治療料で示談事濟み

●互に盜罪を讓る

九日午前三時河橋巡査派出所に此奴は盜賊にて候いや私しは盜賊でありません此奴が盜賊でありますと申出たが眞實の盜賊は西小門外盖井洞統戶不詳韓俊汝と梨峴南門後九統六戶金剛用の二人にて直ちに本署へ引致さる

●烟草の掏り損ひ

一昨日午後二時南大門通り市場にて卷烟草を掏り取らんとして捕へられたるは東大門外金石岩（二十）及び南大門通り二丁目市場雜貨商元久洙（三十）二名のケチな韓人なり

●眞瓜代一錢の不足

九日午後十一時椒洞十三統六戶金浩當（二十五）は賣れ殘りの眞瓜を背負いて歸る處を大和町一丁目木村與四郎が呼び止めて二錢の眞瓜三個を求め五錢を拂いて一錢を支拂はぬ處より件のヨボ君大に立腹した揚句が警察署へ說諭方願出依て木村はれ目玉

●チヨンガの賭博

京城生れの居所不定擔軍朴三竜（十五）は九日午前一時支那領事館の門前にて外二名の韓人と金錢を賭し居たるが巡査の來るを見るや狼狽て逃げ去るを前記三竜一人丈けを引き捕へ一應警察署に引致したる上嚴重に說諭して引下らしむ

●火が一ツ

八日午後十二時大仁峴六十八統十一戶李厚景方の軒に懸れる樋の中程に炭ほどの火のあると巡廻の巡査が發見し直に之を消し止めたるが何分怪しき火なりとチンガミサン青くなり居たり

●流行病

竹添町六十九番戶巡査窪田齊熊（三十）は腸窒扶斯に罹り八日大韓醫院に若草町二丁目二十番戶矢島正義（十七）は腸窒扶斯にて八日大韓醫院へ吉野町一丁目番外古谷伊助長男浚雄（三）は痘瘡にて八日青坡病院に入院治療中

●日本麥酒第二回抽籤

日本麥酒會社の景品附大賣出しは到る所好評を博しつゝありて既に仁川に於て第一回抽籤を擧行し其當籤を發表したるが昨十日第二回抽籤を京城南山紀念碑側なる音樂堂に於て午前十時執行に着手し同十一時五十分終了したり會するもの同會社出張員京仁販賣組合員等を始め傍觀者無慮數十名にして京城各新聞社員亦立會したり因みに第三回抽籤は來る廿五日の期日なるも最早景品附賣品殆ど賣盡したれば或は之を繰上げて擧行するならんとのことなり

●歌舞伎座は乳姉妹

歌舞伎座に於ける伊東一座は開場早々の好人氣なるが本晚の替狂言大阪毎日新聞所載乳姉妹にして其役割は左の如し

植木屋吉五郎（大山）不破夏子實は武村光子（桂）佛國歸化豐子娘實は不破夏子（吉野）會社員成島猛后に植木屋若者（山路）小泉俊三妻れ時、法學士長田右二（酒本）不破侯爵（酒本）乳母豐子、田舍者水落喬助（北秋）野間夫人（美咲）後三養父仙三（杉浦）海軍中尉武村俊三（伊東）

●本町座の鬼權

本町座白川一座は大阪の高利貸鬼權事件を劇に仕組み本日の狂言に上することゝなれり其役割は

情婦れすみ、西村うた（今井）福原署長、熊五郎（石黑）下女たはる（伊藤）植木德（葉山）木村喬（土居）瀨戶力藏（岡島）飯尾警視（田宮）木村榛右衛門（南郷）大久保北署長（中川）今田曾根崎署長（小泉）小使藤作（秋岡）赤庭警部（秋山）山口洞（佐藤）姿たやす（三浦）兒玉曾根崎刑事（新加入數島）娘れ花（四位野）山本久吉（島村）長五郎、豐田平野郷署長（白川）

●天氣豫報（自十日午後六時至十一日午後六時）

東の風曇但少雨

十日午前六時各地氣象概況

北又は東の風流行し西部は曇天其他は雨を催せり

老妓 茶羅次の身上話（十）

◎夜嵐お絹

此頃素人芝居が流行るから夫れにカブレてといふ譯でもありませんでせうが新橋の若い藝妓がさる御連中のお催しに田中屋さんで芝居を出すといふ大變な譯になりまして其稽古や何かで夫れは〳〵騒ぎでした妾も其れ座敷に招ばれた一人でしたから實は下座の方に廻つて居れば宜かつたので厶いますのを藏甲斐も無く皆ながお芝居をやるんなら妾も一幕演して凄い所を見せてやらうとお粂さんと相談をしまして子婆たれの癖に如何でせう艶物も艶物お染、久松の道行と極めお粂さんが久松妾がお染で鶴萬總大盡りの衣裳は芝翫が着たのだといふのをひツかけまして「今も昔も死町」で現れましたが樂屋に居る時は何ッ何方がれいでにならうともかもうものかツて氣でしたが扨て舞臺と極まつたお座敷に出て見ると桂さんを始めとして皆御懇意の御連中がヅラリと並んで入らしッて益田（太郎）さんなどいふ惡黨がヨー〳〵丸ぽちやとかオツト可愛らしいお孃ちやんなんかんとお冷評なさるんでしよう如何酒アつくでも正面が切れず仕舞ひ樂屋へ逃げ込んでからヤツト人心地がつきましてすよ

妾は猿若町で生れましたので藝事の手ほどきは評判の彼の夜嵐お絹さんに教はて頂きました妾の家は其時分澤瀉屋といひましてお絹さん家と裏合せでしたから毎日の樣に遊びに往き〳〵しましたが其度びに御馳走をして下すつたり何かしましてお夫れは〳〵實子の樣に引愛がつて呉れました御存じでもありましようがお絹さん家は芝居茶屋でも大茶屋でナカ〳〵繁盛をした茶屋で厶います其頃の大茶屋と申しますと軒に大きなブラ提灯を下げて置くのが習慣で此大提灯が無い家は宜いお茶屋の仲間に這入れなかつたもので來るお客樣も提灯を目當てにある家は大茶屋だナと合點をして御身分のあるお方は大概此大茶屋から御見物になりましてす何御稼業に依らず見得といふものはあるもので厶いますが殊更芝居茶屋なんと來ますと夫れが烈しいから幕開きのズツト前から見世先を飾り毛氈、烟草盆などを成る丈人の目につく樣に積んで置き〳〵致しましたもので其毛氈と烟草盆の數でハヽアあのお茶屋には今日幾人のお客があるといふ事が直ぐ知れるのです――夫れは毛氈、棧敷、烟草盆は土間客といふ事に定つて居りましたから鳥渡見たつて直ぐ判然る譯で厶います其處で毛氈の多く積んである家を見ては今日は何處そこの家は素敵にモハがあるナなんて宜く仲間うちで噂をしあつたものでした

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ケ月前金卅五錢▲三ケ月前金壹圓▲六ケ月前金貳圓▲郵税一ケ月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西小門通 京城新聞社 電話六六三番